

「こどもフェスティバル in SANO 2012」

5月3日（祝・木）から5日（祝・土）の3日間、堀米町のこどもの国で「こどもフェスティバル in SANO 2012」が行われました。

3日にはテレビで大人気の「特命戦隊ゴーバスターズ」ショーが、4日には小山高専の生徒による「ロボコン」ショーが、5日には「わんぱくレクリエーション広場」での遊びなど、盛りだくさんのイベントが開催されました。

5日は親子で楽しめるアトラクションが多く、天気にも恵まれたこともあり、会場はたくさんの元気な笑い声が響いていました。輪投げや的あてなど体を使った遊びでは、家族で一緒に楽しんでいました。

当日は他にも巨大な「佐野かるた」を使ったジャンボかるた取り大会や、エアポリン、ペットボトル釣り、天体観測車「アストロカー」での太陽観測会、プチロケット作りなどが行われ、どのブースでも楽しそうな子どもたちで賑わっていました。



注
目

健康
福祉

募
集

催
し
物

お
知
ら
せ

講
座

話
題

米国ランカスター市の中学生が佐野市を訪問しました



市の姉妹都市となっているアメリカ合衆国ペンシルバニア州・ランカスター市の中学生20人が国際交流事業の一環で、5月15日（火）から21日（月）まで佐野市を訪れました。

滞在中は、20人それぞれがホストファミリーのお宅に滞在し、郷土博物館、出流原弁天池、吉澤記念美術館、葛生伝承館など市内を見学したほか、各ホストファミリーのお子さんがいる中学校を訪問しました。

訪問した中学校では、生徒と一緒に家庭科の調理実習や国語の書道体験などを行い、お互いが片言の言葉でコミュニケーションをとりながら交流しました。また、日本文化の体験として、市茶華道協会の協力のもと、万葉の里・城山記念会館で「お茶」と「お花」を体験し、説明を聞きながら日本文化に興味深そうに学んでいました。

ランカスターの子どもたちは、国際交流協会の会員やホストファミリー、交流した中学校の先生・生徒などの「おもてなしの心」を基にした暖かいもてなしで、異国での一週間ほどの生活を楽しみ、母国へ帰国していきました。



渡良瀬川クリーン運動が実施されました

お詫びと訂正

広報さの5月1日号24ページから25ページの「まちの話題」で掲載させていただいた、大相撲巡業「名水の里 佐野場所」の開催日、また、市民記者・葛貫さんのお名前の表記に誤りがありました。

大相撲巡業「名水の里 佐野場所」の正しい開催日は4月8日（日）、また、市民記者・葛貫さんのお名前は「葛貫郁子」さんです。訂正して、お詫びいたします。



5月13日（日）、高橋大橋および船津川運動場近辺の渡良瀬川河川敷において、渡良瀬川クリーン運動が行われました。

この運動は今年で18回目。参加してくださった皆さんの手により、空き缶・空き瓶、菓子袋など、さまざまなゴミが集められました。

この日はみどり市から栃木市までの渡良瀬川とその沿川流域で一斉に行われ、栃木・群馬両県の7市2町の住民約8,600人が参加しました。

クリーン運動に参加してくださった皆さん、お疲れ様でした。

人と人が触れ合うところ



▲おしゃべりに花が咲く店内

今、お年寄りの買い物と、人と人との結びつきを考えていくうえで、地域にある小さなお店が見直されています。

大和町の青木常代さんが営むお店は椅子が用意されていて、いつも、地域のお年寄りの元気な笑い声でいっぱいです。

お客の皆さんの声を聞くと、「病院の帰りに必ず寄ります。買い物と近所の皆さんとのお喋りが楽しみ」「いろいろと話を聞いてくれて嬉しい。ここが無くなったら買い物に行くのも大変」「わたしたちの健康を考えた味付けの商品のおかげで、お医者様にも褒められました」などと明るく話してくれました。



▲青木常代さん

郊外にある、車で行くような大型店ではなく、街中の小さなお店だからできることがあるようです。お客さんと触れ合い、お客さん同士が楽しむ。そんな優しいお店を大切にしていきたいと痛感しました。(市民記者 吉井貴子)

「あ、のジサマ（爺さん）は、近くの酒屋にミツカセンデに寄り込んだ（では、一杯ヒツカケテ（飲んで）、機嫌よさげにケーッテグンダッテガネ（帰って行くんだそうですよ）」

ミツカセンデは、「三日せすして」が変化したもの。つまり「三日も経（た）たないうちに」が元の意、これがさらに変化して、「しよっちゅう」の意になったというわけです。

市民記者 森下喜一

被災地復興支援 日帰りボランティア



5月12日（土）、佐野市社会福祉協議会は、東日本大震災で被災した宮城県山元町へ「被災地復興支援日帰りボランティア」を派遣しました。

今回は、32人のボランティアと引率職員2人の計34人が参加しました。早朝に佐野市を出発し、宮城県山元町へバスで移動。到着後は、3班に分かれ活動し、うち2班はイチゴ農家の支援、うち1班は砂で埋まった畑の整理を行いました。

この日の山元町は風が強く肌寒い1日となりましたが、参加者は強風にも負けずに力強く作業を行っていました。

ボランティアに参加した方は「震災から1年以上経過したが、まだまだ支援は必要だと感じた」「活動を通じ、現地の方々やボランティアの皆さんなど、年齢や男女を問わずたくさんの人たちとお話でき、人と人とのつながりは素晴らしいと思った」などと、活動の感想を話してくれました。



佐野市
ばんでい

ミツカセンデは、回数
がちよつと多過ぎると
感じたときにいう

同じ動作が繰り返して行われることをバエンコといいます。特にその動作を強めていう場合には、同じ語を繰り返してバエンコバエンコバエンコといえます。

「バエンコバエンコ（繰り返し繰り返し）同じこととべー（ばかり）という人の話を聞いているのはつらいけど、知り合いジャー（では、まあ、シャーネヤ（仕方がない）ね）」

バエンコは、「変り番こ」の番こと同じで、これが変化したものです。「番」は、順番に入れ替わること、「コ」は、そのようすを表す語（接尾語）です。バエンコバエンコは、同じ動作を繰り返すことから、「いつも」「しよっちゅう」という意味として使われることもあります。

ところで「しよっちゅう」の意を表す方言には、ミツカセンデがあります。人によつては、ミツカセンゼとかミツカセンベなどともいいます。昭和の中頃から使用者が少なくなり、今ではほとんど聞かれなくなつてしまいました。